

第3回 福井県立美術館機能強化に関する基本計画策定委員会 議事概要

日時：令和7年11月12日（水）13:30～15:30

場所：福井県庁 第3委員会室

委員出席者（敬称略）

渡部葉子・赤土善蔵・浅野桃子・石堂和代・神野善治・戸田正寿・玉森慶三・虎尾弘之

議題

議題(1) 県民への意見聴取結果（アンケート結果）

議題(2) 美術館機能強化基本計画（骨子案）

本委員会では議題(1)および(2)について、一括して事務局からの説明と議論が行われた。

まず事務局から議題(2)美術館機能強化基本計画（骨子案）の概要説明があり、続いてその裏付けとなる議題(1)県民への意見聴取結果（アンケート結果）」について説明が行われた。議論ののち、今後のスケジュールを確認した。

委員からの意見

◆ビジョン・コンセプトについて

- ・骨子案はこれまでの議論やアンケート結果を丁寧に反映しているが、30年後や50年後の未来を見据えた明確な目指す姿やビジョンが不足している。福井県として何を目指すのか、県民が共感できる未来像を盛り込むべきだ。
- ・美術館の目指す姿は現状の延長線上にとどまっており、もう一步踏み込んだ内容にすることで、福井の歴史や人材を活かした独自性を打ち出せる可能性がある。
- ・機能強化の方向性は、三本柱として整理されているが、これらを統合し未来に向けたコンセプトを明確に掲げることが必要。
- ・県民の文化レベル向上や幸せな暮らしの実現を目的とし、観光客向けではなく県民のための美術館であることを強調すべきである。
- ・福井県立美術館が持つ蓄積（日本画の名品などの収蔵品）のほか、地域の産業・ものづくりの伝統などを最大限に活用し、福井らしさを打ち出すことが重要。
- ・美術館の壁や展示空間の名称やイメージも柔軟に検討し、硬い印象を和らげて親しみやすい場づくりを目指すべき。
- ・未来に向けて、デジタル技術の活用や柔軟な展示空間の設計など、新しい視点や手法を取り入れることが望ましい。

◆展示・収集について

- ・有名な作品を呼んでくる企画展だけでなく、これまで県立美術館が集めてきた日本美術など、今あるものに光を当てて、活用するべきだ。
- ・福井ゆかりの岩佐又兵衛、岡倉天心といった作家の系譜を、現代アートにどう繋げていくかという視点を常設展に反映させてはどうか。
- ・県立美術館が蓄積してきた日本画の歴史的価値を活かし、専門的かつ博物館的な展示空間

（例：日本画の特別展示室）を設け、デジタル技術を活用した資料閲覧や解説も導入すべき。

- ・常設展示の設置は重要であり、収蔵品のオープン化や活用を進めるべきだが、単に多くの作品を並べるのではなく、質の高い展示や比較展示によって鑑賞者の学びを深める工夫が必要。例えば制作過程を見せるような展示はどうか。
- ・収蔵品の中には一般には知られていないが価値ある作品が多数存在し、これらを積極的に展示に活かすことで福井の独自性を強調できる。
- ・展示空間の壁や設備の老朽化が指摘されており、展示環境の改善を図る必要がある。
- ・企画展と常設展の連携を明確にし、柔軟に展示内容を変えられる空間設計が求められる。
- ・展示の質を高めるために学芸員の創意工夫や才能を活かすことが重要であり、単なる作品の陳列にとどまらない展示方法を追求すべき。

◆教育普及・人材育成について

- ・子どもたちが美術館で学べる場を創出し、来館者が継続的に関わることで美術館への親しみや憧れを育てることが重要。
- ・ワークショップやクリエイティブスペースの設置により、子どもや若手アーティストが制作活動を行い、その成果を美術館内外で展示できる環境を整備すべき。
- ・美術教育の枠にとらわれず、自由に遊びながら学べる場を提供し、子どもたちが自発的に美術に親しむ機会を増やすことが望ましい。
- ・身体障がい者や障がいのあるアーティストの展覧会を、純粋にアーティストとして評価し、社会的な偏見を払拭する形で開催することも検討すべき。
- ・学校や地域への出前授業やオンライン解説など、新技術を活用した教育普及活動を強化し、幅広い層が美術への理解を深められるようにしてほしい。
- ・県内のアートプロジェクトや若手作家との連携を深め、地域全体での人材育成や文化発信を図ることが期待される。
- ・美術館が子どもや若者にとって居場所となる環境づくりや専門スタッフの配置も必要。
- ・小中学校の教諭が、美術館を教育の場として使いやすくなる方向が示されたのはうれしい。

◆運営・連携について

- ・美術館の運営体制について、機能強化を図るならそのための人員は確保する必要がある。
- ・民間活力の導入など多様な手法を検討し効率的な運営を目指すべき。
- ・県内の多様な主体や地域と連携し、美術館を中心としたまちづくりを推進することが重要。
- ・県内各地からのアクセス向上のため、定期的な直行バスの運行など交通手段の整備を検討し、高齢者や車を運転しない人も利用しやすい環境を整えるべき。
- ・学芸員だけでなく、専門のワークショップ講師やアーティストを招くなど、多様な人材を活用した運営体制が望ましい。
- ・美術館の活動や展覧会の魅力を広く発信し、県民の文化意識向上と美術館ファンの増加を図る取り組みを継続していく必要がある。

◆施設・設備について

- ・役割が決まったスペースだけでなく、柔軟な用途で使える場所が必要。
- ・展示室壁面の汚れや老朽化が目立つ。展示環境の改善をしてほしい。
- ・展示空間には柔軟性を持たせ、壁の移動などで変化をつけられる設計が望ましい。
- ・駐車場は現在の周辺施設のスペースを活用し、現状より約 40%程度の増設が可能と考えられているが、整理整頓を含めて検討が必要。
- ・トイレの配置は建築の重要なポイントになりうる。いい美術館はトイレもいい。
- ・施設全体の美観維持に努め、常に清潔で美しい環境を保つことが重要である。

◆その他

- ・展示作品の数が多すぎると鑑賞者が疲れてしまうため、質を重視した適切な展示数が望ましい。
- ・それとは対極に、大量の作品をあっさりと鑑賞する経験も必要だと思う。
- ・デジタル技術の発展を踏まえ、オンラインでの展覧会や資料閲覧など新たなサービスの導入が求められている。
- ・美術館の運営や展示においては、常に新しいアイデアや工夫を取り入れ、時代の変化に対応していく必要がある。
- ・美術館の魅力向上には、スタッフの才能や創造性を活かすことが不可欠であり、これを支援する体制づくりが重要である。